

「富士登山競走山頂コース 10 回優勝歴代 1 位」

山口県防府市
AIG 損保（旧富士火災）
芹澤 雄二

☆成績：山頂コース：優勝 10 回歴代 1 位

第 39 回（1986 年・S61 年）優勝	2 時間 42 分 16 秒
第 41 回（1988 年・S63 年）優勝	2 時間 37 分 58 秒
第 42 回（1989 年・H 元年）優勝	2 時間 39 分 18 秒
第 43 回（1990 年・H2 年）優勝	2 時間 36 分 23 秒
第 44 回（1991 年・H3 年）優勝	2 時間 39 分 58 秒
第 45 回（1992 年・H4 年）優勝	2 時間 41 分 08 秒
第 46 回（1993 年・H5 年）優勝	1 時間 21 分 16 秒（五合目打切り）
第 47 回（1994 年・H6 年）優勝	2 時間 21 分 01 秒
第 49 回（1996 年・H8 年）優勝	2 時間 39 分 35 秒
第 51 回（1998 年・H10 年）優勝	2 時間 40 分 02 秒

（1）参加した動機・（2）参加体験の感想

高校 2 年生（16 歳）、高校 3 年生（17 歳）の時に、富士宮口から 2 年連続日帰り富士山頂剣ヶ峰に登りました。五合目で待っている親父に「早く登って来ないと俺は帰る。」と言われ、新聞配達で鍛えた走力で必死に登りました。その時、のんびり登っている一般登山者を抜いて行くと何人かに「あっ富士登山マラソンの練習だ。」と言われ、それが頭の中に記憶として残りました。

18 歳、社会人になり、本屋で雑誌「ランナーズ」を見てあるページで体中の血が沸き上がるのがわかりました。「日本一過酷なレース富士登山競走」の参加募集案内でした。それを見た時、この大会で優勝できるんじゃないかと思いました。私の出場したい山頂コースは 19 歳以上でなければ参加できなかったもので、翌年 1981 年 34 回大会に初出場 32 位でした。それから毎年参加して 37 回大会が 13 位、それ以外は貧血で良い結果は出ませんでした。

第 39 回大会（1986 年）は寅年で、私は 24 歳年男、貧血を治し、富士山で土、日の休みを利用して、必死に練習し、6 年目でやっと初優勝することができました。翌年 2 連勝を狙って、佐々木一成さんに負けて 2 位、しかし、この負けが大きなバネになり、その後の 7 連勝につながったと思います。

1992 年に結婚して、生まれ育った静岡県から山口県に住む事になってからの富士登山競走で勝つための難しさは、かなりありましたが、通算 10 回優勝して、大会主催者から頂いた特別なトロフィーは私の宝物です。

（3）当時の練習内容

とにかく山（坂）を走るのが好きだったので、ほぼ毎日地元の山のあるコースを走っていました。後は、休みを利用して 5 月の連休頃から富士山に行って、レースコースを走りました。

（4）レース時の服装、飲食物等

ランシャツ、ランパンで白色にこだわりました。太陽の光で暑くならないためです。白い帽

子もよくかぶりました。シューズは、できる限り軽いものを使用しました。飲食物は、優勝している頃は、レース前日の夕食と当日の朝食で、これでもかという位、御飯を食べました。レース中のガス欠を防ぐためです。レース中は何も持たずに、山小屋で出してもらえる水を飲むだけでした。

(5) 富士登山競走への思い

富士山頂がゴールという大会は、この大会しかないのでは是非続けて行って欲しいと思います。

(令和3年3月記)